

斜面変状に伴う対応

1. 影響検討・対策実施

1) 土塊の崩落による波の発生に伴う貯水池への影響検討の実施 資料1

正確な地すべり量は詳細調査中のため、推定で設定しシミュレーションを実施。

- ・ 平常時最高貯水位（EL236.5m）と洪水貯留準備水位（EL222.0m）の2つの水位で計算を実施
- ・ 平常時最高貯水位（EL236.5m）の場合は、対岸の耳取地区に影響が懸念される結果となった
- ・ 洪水貯留準備水位（EL222.0m）の場合は、水位が低いと、ほぼ影響しない結果となった
- ・ 崩落地点より直線距離で約 4,600 mとなる、下流湯田ダム堤体地点、上流貯砂ダム地点では、平常時最高貯水位（EL236.5m）であってもほぼ影響しない結果となった

2) 耳取地区に大型土嚢等を設置 資料2

大雨で貯水位が上昇する可能性があることから、波による影響が懸念される耳取地区に、影響を緩和する目的で大型土嚢等を設置した。

崩落が懸念される箇所から、直線的に面している箇所に設置した。

- ・ 設置日時 当初：5月28日～29日 補強：6月1日～3日
- ・ 対策延長 L=190 m

2. 湖面等利用者への対応

1) 湖面、湖岸への立入規制の実施

土塊の崩落や、その波による影響に備えて、貯砂ダムより下流部における、湖面や湖岸への立入禁止等注意喚起を引き続き実施。

- ・ 湖面への主要なアクセス部に看板を設置
- ・ HPでも広報

3. 映像情報の共有

1) 現地撮影映像の共有

北上川ダム統合管理事務所ですべり発生による現地撮影映像（カメラ（国交省1基、岩手県2基）の流失に備え、対岸から撮影するカメラを設置。

撮影映像を岩手県、西和賀町に加え JR 盛岡支社へも提供。（6月8日）

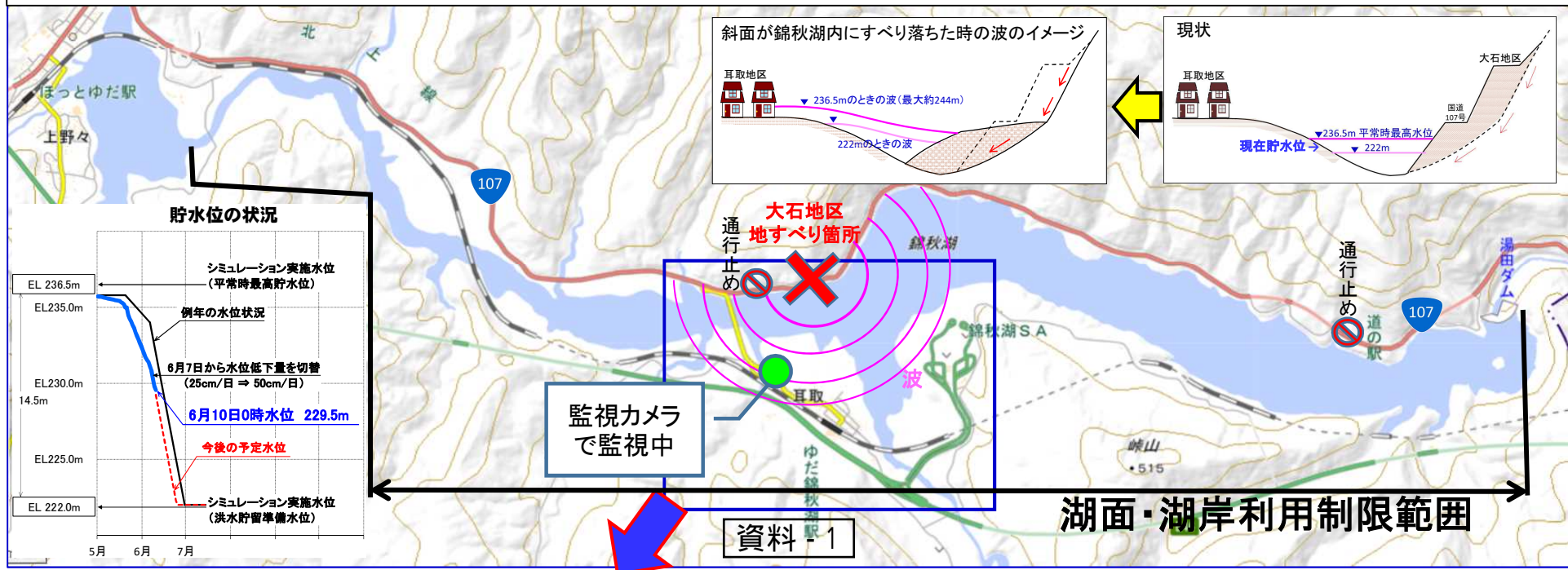
4. 貯水池の運用について

1) 貯水位の低下・利水者との調整 資料3

湯田ダムの貯水位は、7月1日の「洪水期」の開始に合わせ、ダム下流域での洪水氾濫を軽減するための貯留容量確保のため貯水位を低下させる必要があるが、水位低下が地すべりに影響しないよう、慎重に水位を低下中。

- ・貯水位低下の地すべりへの影響を伸縮計計器等で監視しながら実施
- ・本来概ね 50cm/日の速さで水位低下させるところを、当初は概ね 25cm/日で実施していたが、計器観測値に特段地すべりの影響は確認されなかったことから、6月7日より、概ね 50cm/日の速さで水位低下中
- ・計画していた貯水位の低下と異なる操作となるため、利水者（発電（岩手県企業局）にも協力を頂きながら進めている

国道107号地すべりが湯田ダム貯水池に崩落した場合の波の想定について 東北地方整備局北上川ダム統管理事務所



国道107号の法面変状の影響について

- 1 現在、地すべりの動きを常時監視しながら、地すべりの詳細調査を実施しています。
- 2 国道107号の法面変状（地すべり）が、今後地震や大雨等により錦秋湖に落ちると想定したシミュレーションを実施しました。
- 3 シミュレーションによると、落ちた場合には波が発生し、ダムの最高水位236.5mの時に、対岸の耳取地区にも影響が懸念される結果となりました。
- 4 ダムでは、地すべりの動きを誘発しないように、例年より早いペースで、慎重に水位を低下させています。（6/10 0時 約229.5m 最高-7m）
- 5 地すべりが落ちないように、県、国で連携して調査等を進めています。
- 6 地すべりの動きに変化があれば情報を発信しますので、それら情報に注意して下さい。

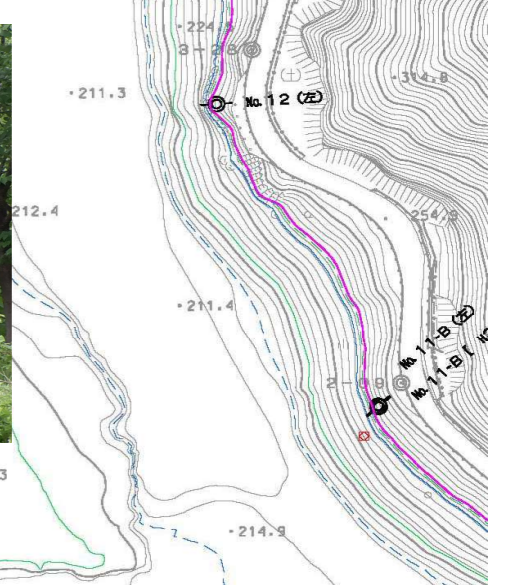
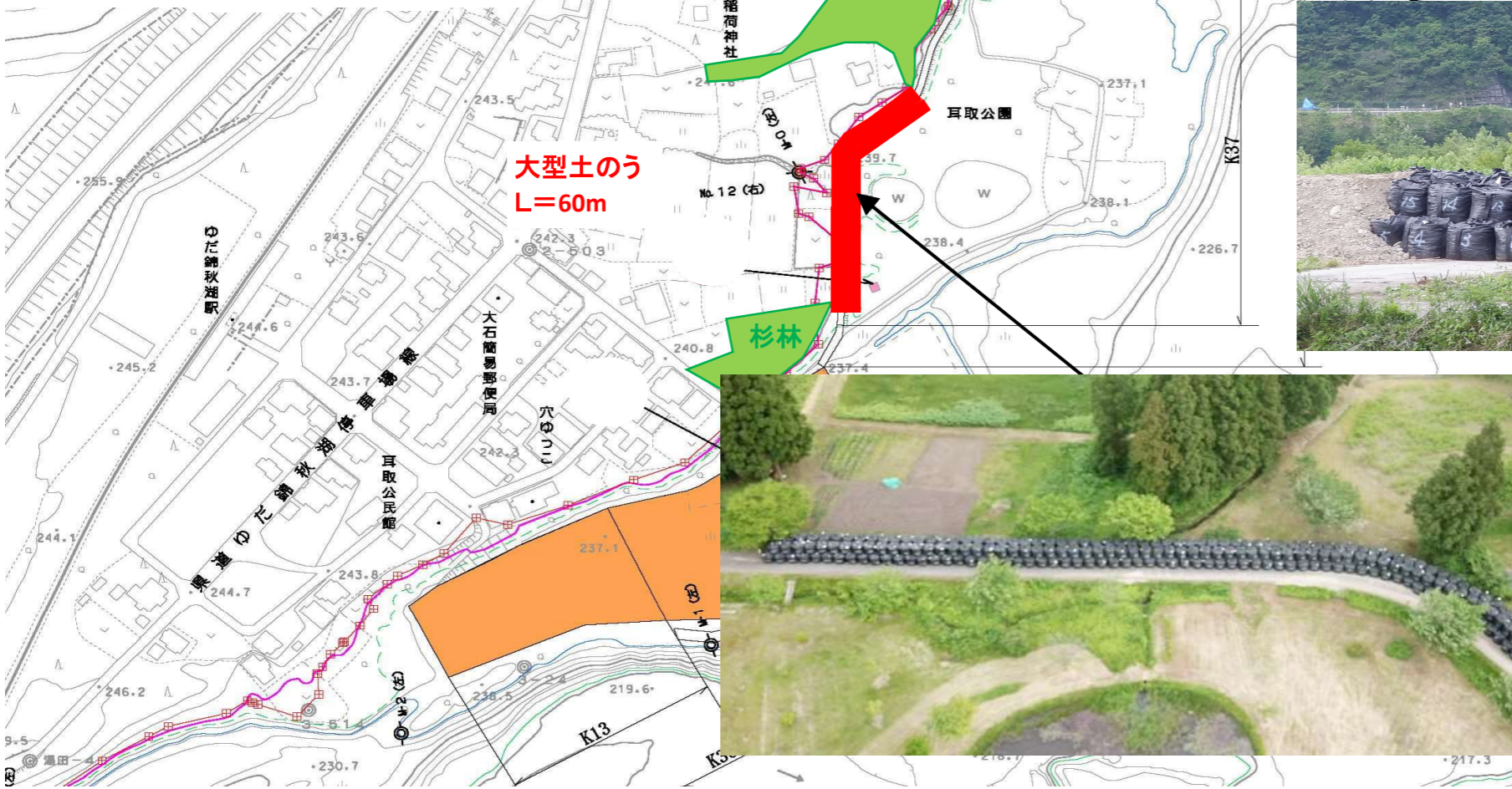
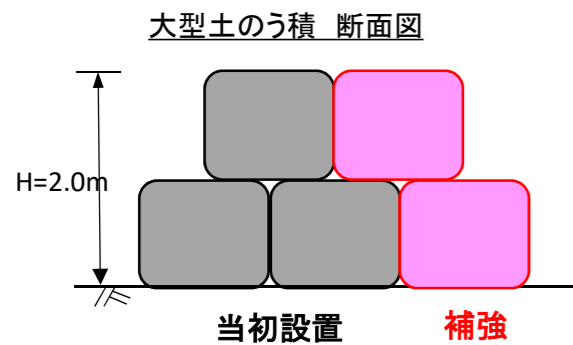
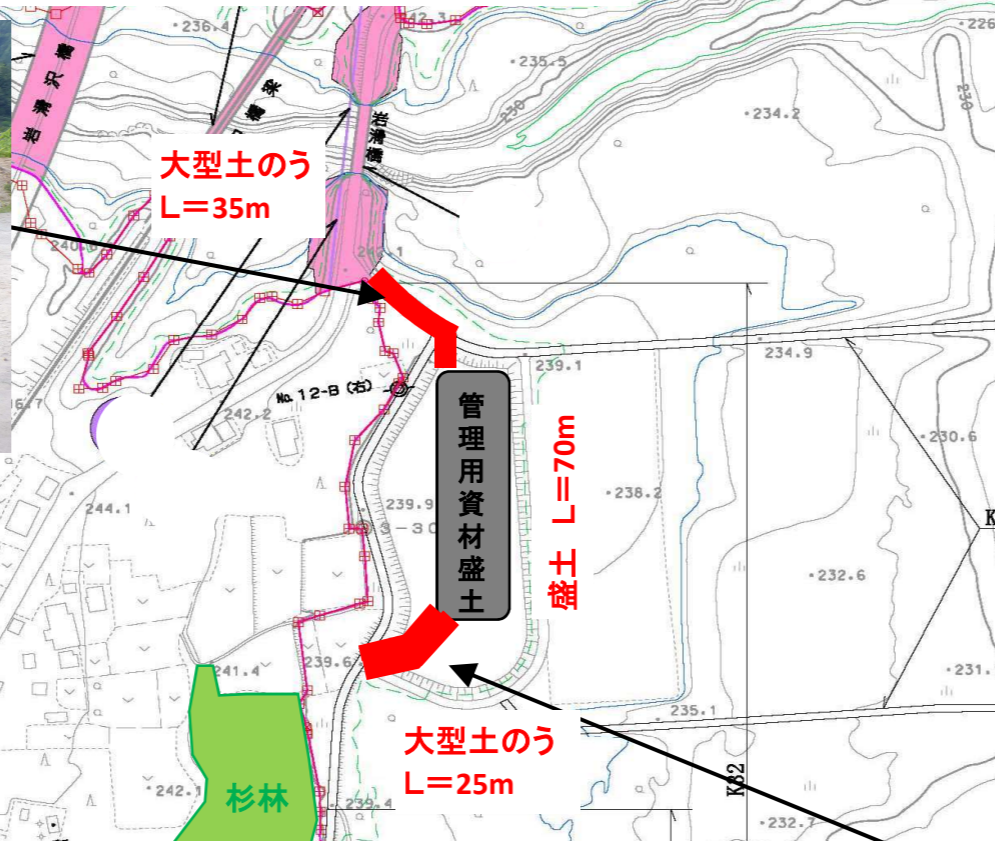
※正確な地すべり量は詳細調査中のため、推定で設定しシミュレーションした結果です。

監視カメラを設置し監視中



監視カメラ映像

湯田ダム地すべりにおける段波対策(減勢)



設置日時: 当初 5月28日~29日
補強 6月 1日~ 3日
対策延長: L=190m
大型土のう L=120m (N=526袋)
盛土 L= 70m

令和3年度 湯田ダム水位運用計画表

